

CHILDREN'S VOICES

ICAN NEWS LETTER



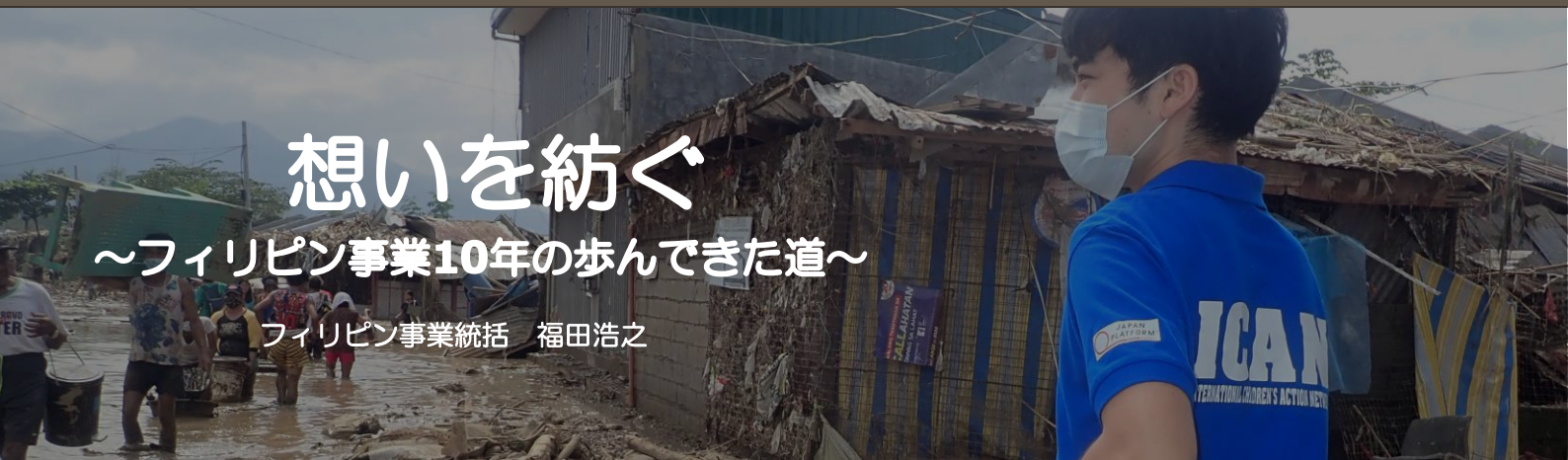
2022年前期を振り返って

いつもアイキャンをご支援いただき、ありがとうございます。会報75号で、安定した経営基盤構築のため、「マンスリーパートナー（以下MP）」と「子どもの家ファミリープログラム（以下FP）」へのご参加をお願いさせていただきました。それぞれお申し込みいただいたことで、MP296名（目標600名）、FP28口（目標275口）となりました。目標には届いておりませんが、ご協力に感謝させていただくとともに、今後もご参加をいただけましたら幸いです。

この会報76号では、2022年5月から10月までの国内、海外での活動をご報告させていただきます。その中でも新型コロナウイルスの感染者数減は、フィリピン国民、「子どもの家」で暮らす17名の子どもたちにとっても何よりの朗報でした。2022年8月から週3日とは言え、子どもたちは再開された学校登校で友人と過ごす時間に胸躍らせました。子どもたちの満面の笑みが思い浮かびます。国内活動では、新型コロナウイルスの影響により、フィリピンへの渡航型スタディツアーは実施できませんでしたが、オンラインで日本とフィリピンを繋ぐことでアイキャンの活動を知っていただき、かつ、現地の子どもたちとの交流も行いました。新しい形でのこの取り組みに参加された方たちは60名にも上り、活動への関心の高さに驚くとともに、とても嬉しい気持ちになりました。新型コロナウイルスは収束に向かってはいるものの、まだまだ注意が必要です。如何にして安心で安全なスタディツアーが組めるのか様々な情報を収集し、来年の再開に向け模索している最中です。

最後に新しい取り組みについてです。2022年9月以降、日本で『多文化共生』＜国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと（総務省）＞事業を開始しました。対象者は、まずは愛知県、岐阜県在住のフィリピンの方々です。アイキャンのフィリピンでの支援活動は来年で30年目を迎えます。これまで現地で培った経験を活かしフィリピンの方々との豊かな共生ある社会作りを目指したいと思います。これまで同様、温かいご支援をお願い申し上げますとともに、これまでのご支援に御礼申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局長 ^{あざみ} 筋 健太郎



想いを紡ぐ

～フィリピン事業10年の歩んできた道～

フィリピン事業統括 福田浩之

大学を卒業後、フィリピン大学の地域開発学部で修士課程を取るために、私はフィリピンに来た。あれから約10年が経った。

私は、大学生の時、自立支援生活センターで働いていた。当センターは、障がい者が運営する組織であり、障がい者が地域で自立生活できるようなサービスを提供するとともに、障がい者が当たり前の生活を送れるように行政に訴える活動をしている。ある日、重度身体障がいを持つ私の上司が講演の中で、「私は子どもの頃、施設で生活していた。施設には自由がなかった。起床から就寝まで1日の予定が決まっていた。当時の私はロボットだった。」と語っていた。その後、夕食を一人で食べている時、涙がこぼれ落ちてきた。私の上司に、自分はロボットだったと言わしめた社会への憤りからだった。地域では生活できない無力な存在である障がい者には施設で暮らしてもらう、そんな社会の仕組みが許せなかった。

フィリピンは、公的な制度は未成熟だが、市民社会が制度の不十分さを補っている。また市民社会が国家に働きかけをして、民主主義を定着させたという歴史も持つ。私はフィリピンで、困難な状況にある当事者がお互いに支えながら社会の変革を目指す、その過程を学びたかった。そして、実践もできるようになりたかった。

支援とは「待つ」こと — 人の経験を奪わない —

私は、2013年にアイキャンに入職した。アイキャンは「人々の”ために”ではなく、人々と”ともに”」を大切にしており、それは「当事者の視点で社会の変革を図る」という、私が大切にしている信条と合致していた。アイキャンのような国際協力NGOは、貧困の人々の支援をしているというイメージが強いと思う。支援とは何なのか？これまでの私の約10年間のアイキャンでの歩みを通して分かったことは、支援の真髄は「待つこと」にあるということだ。

「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」のが大事だとよく言われる。しかし、私は、それよりもまず、「魚を自分で釣りたいと思ってもらう」のが大事だと思う。例えば、路上で生活している子どもたちは、学校に行けず、そのため安定した職に就けず、貧困の連鎖から抜け出せずにいる。そのような子どもたちに、奨学金を提供して通学を促しても、周りに「教育は重要だ」と言ってくれる人や、大学まで卒業して教育の可能性を示してくれる人がいない環境で育ってきたため、教育の意義を感じられず、通学を断念する場合がある。子どもたち自身が、「学校で勉強したい」と思わない限り、「支援」の効果は出ない。誰かから期待され、何かを成し遂げる機会に恵まれなかった子どもたちに、「魚を自分で釣りたいと思ってもらう」ことは、一朝一夕にはできない。

待つことは、人の経験を奪わないことでもある。アイキャンがともに活動するカリエ（元路上の若者が運営する協同組合）は、コロナ禍でカリエカフェの閉鎖を余儀なくされ、オンラインを通してパンやお菓子を現在販売しているが、売上げが思うように伸びていない。そのカリエの”ために”、アイキャンが各企業を回ってカリエ



の商品を宣伝し、カリエの売上げを向上させることはできるが、その行為は、カリエが「売上げが伸びないが、どうしたらいいのか」と頭を悩ます経験、企業訪問時にうまく話せなくて悔しい思いをする経験、など数々のカリエの経験を奪うことに繋がる。人の経験を奪ってはいけない。たとえ、その経験によって、彼・彼女らがひどく落ち込み、くじけるようなことがあっても。アイキャンは、人々が持つ力を信じている。メス鳥が卵を突っつき、内側からヒナが殻を破って出てくるのを待つように、アイキャンは、現地の人々にどのようなことを伝えて、どのような機会を提供したら、内側の変化が起きるかをひたすら考えてきた。そして、待ってきた。アイキャンはそのように人々と”ともに”活動してきた。



「ともに」歩んだ10年 ―葛藤、憤り、そして、希望―

路上で生活する子どもの姿を初めて見た時、私の心はひどく痛んだ。あれから約10年。路上の子どもを見ても、以前と比べて何も感じない自分がある。絶えず情熱を持ち続けるのは難しい。路上の子どもの課題はあまりに大きく、途方ない気持ちにもなる。それでも、目の前の現実から目を背けず、活動しないといけいない。

コロナ禍以降、アイキャンでは現在に至るまでスタディツアーを実施できていない。そのため、日本から応援して下さる方々と直接触れ合う機会はなくなった。ただ、オンラインによるスタディ・プログラムを通して、日本の方々との交流を維持できたことは、私の心の大きな支えになった。カメラを通して映し出される、路上で寝る子どもの姿を見た参加者の驚き、哀しみが混じったリアルな声は、麻痺した私の心に染み渡り、当時の感覚を呼び起こしてくれる。まだまだ頑張れる、もっと頑張らなければと奮い立たされる。

NGO職員として働いていると、世界は不公平で、この子が、なぜこんなにも辛い経験をしないとはいけいないのかと思うことがある。親が自分を愛してくれない、誰も自分に期待してくれない、政府が何もしてくれない。そんな状況の子どもに、「それでも、あなたは現実に向き合って、生きていかないとはいけいない」と言うのは、無慈悲かもしれない。でも、誰も自分の味方をしてくれなくても、自分だけは自分の味方をしないとはいけいない。自分は自分を諦めてはいけいない。目の前の現実打ちひしがれる子どもがいる限り、アイキャンはフィリピンで活動し続ける必要がある。

現在、アイキャンは児童養護施設「子どもの家」を運営して、路上で生活していた子どもたちに愛情あふれるホームを提供できるようになった。元路上の若者で構成されるカリエも、自立の道歩んでいるだけでなく、路上の子どもたちに、教育の重要性を伝えるなど、子どもたちの模範的存在に成長した。「勉強したい」と復学した子どもも何人もいる。路上の子どもたちの課題はとてつもなく大きい。けれど、確かにアイキャンは前に進んでいる。今後も前に進める。あなたと”ともに”なら。



活動ダイジェスト |

2022年5月～10月のアイキャンの活動

1. フィリピン共和国

<子どもの家>

- 身寄りのない元路上の子ども17名が適切な住環境で生活することができました。また、コロナ禍でも「子どもの家」でのプリント学習を行うことで、7月には全員が進級し、8月からは週に3日の対面式授業が再開したことにより、学校への通学を行いました。
- 現地パートナー団体による歯磨きに関する研修に17名の子どもが参加しました。



<路上教育>

- 2022年8月に学校の通学が再開したことを受けて、ブルーメントリット地区で暮らす5名の路上の子どもが復学をしました。復学した子どもと学校に通っていない路上の子ども、計22名を招待し「意見共有会」を開催しました。この共有会では、復学した子どもが、なぜ復学したのか、今後の目標は何かを共有し、学校に通っていない路上の子どもへの教育に対する意識向上を図りました。



<職業訓練>

- カリエメンバー合計7名が、ブルーメントリット地区とエスコルタ地区の路上で生活する子ども、合計24名に対して、社会人としてのマナーや履歴書の作成方法、教育の重要性等に関して、職業訓練を実施しました。
- カリエメンバーがバナナチップス、サツマイモチップス、パンデサル等の新商品発表会を1回実施し、合計11名の訪問者が参加しました。
- フィリピンのビジネス成功者が主催するビジネス相談会に8名のカリエメンバーが参加し、マーケット拡大方法、商品のアピール方法等の助言をもらいました。
- 日本のシフォンケーキ専門店の協力を仰ぎ、カリエメンバー6名を対象に、シフォンケーキ研修をオンラインで4回実施しました。また、カリエメンバー2名が、ポテトチップス、及びカボチャチップスの新商品開発の練習を実施しました。



<給食活動>

- マニラ市トンド地区に住む3～5歳の栄養不良の幼児129名に対して、住民組織とともに給食活動を実施し、延べ3,463名が参加しました。
- 現地のフードバンクより受け取った食料を、同地区において延べ412世帯に提供しました。また、現地企業より受け取った栄養価の高い食事パックを、貧困地域に住む480世帯に4回提供しました。
- 家庭内での食行動の改善や給食活動に従事する住民組織を形成するために、ワークショップを2回実施し、延べ28名が参加しました。その結果、12名で構成される住民組織が結成されました。
- 住民組織の11名が、日々の食事のメニュー、保護者及び幼児150名の食行動改善に対する意識と行動を評価するためにベースライン調査を実施しました。



「子どもの家」のファミリーになっていただけませんか？

月々3,000円（1日あたり100円）から始める国際協力。
「子どもの家」で暮らす子どもたちのファミリーとして、成長を支えていただけませんか。詳細は、アイキャンのHPよりご覧いただけます。



2. 能力強化事業（日本）



- 中学校～高校までの教育機関で、フィリピンの現状と活動や、子どもの権利などについての講演を、2件、合計約38名に対し行いました。また、7件の事務所訪問受入を行い、合計38名の方々に対して講演や事業説明を実施しました。
- フィリピンの児童養護施設「子どもの家」に関する説明会や、交流会等の自主イベントを13回開催し、合計32名にご参加いただきました。
- NGO相談員として、講演を2件、イベントでのブース出展を1回実施し、学生やNGO関係者ら215名に、NGOの役割や子どもの権利についてお話するとともに、就職相談やODAスキームの紹介を行いました。また、NGOの活動や組織運営、国際理解教育等に関する質問を、合計648件受け付けました。
- 日本事務局にて2名のインターン生を受け入れ、主に、フェアトレード事業の補佐・街頭募金活動の実施・イベント出展等を担当してもらいました。
- オンラインでスタディプログラムを3回実施し、合計28名が参加しました。

3. ボランティア・寄付活動推進事業（日本）

- 書き損じハガキ(合計10,927枚)や、古本や不要品(寄付件数40件)の収集活動を行いました。
- 2022年10月末時点のマンスリーパートナーは296名で、「子どもの家ファミリープログラム」は、28件でした。
- 「世界フェアトレードデーなごや」や「環境デーなごや」、「グローバルフェスタ」等、合計6つのイベントに出店し、インターンとボランティア合計11名がフェアトレード商品の販売を行いました。
- 街頭募金を5回実施し、延べ47名のボランティアに参加いただき、223名の方々が募金してくださいました。
- 今期、延べ41名が事務局ボランティアを行ってくださいました。



4. 多文化共生事業（日本）

- 2022年9月より、新たに愛知県と岐阜県を対象とした多文化共生事業を開始し、聞き取り調査を1件実施しました。

番外編

ソーラーランタンのモニタリングを実施

ジブチでの活動は、2022年3月をもって終了しましたが、2021年11月にPanasonic様と協働で配布を行ったソーラーランタンの使用について、現地パートナーのONARSを通じて、2022年7月に2回目のモニタリングを行いました。

ジブチなどの難民キャンプでは、電力が通っていないため、多くの難民キャンプでは夜は特に真っ暗です。電気がないことが原因で、子どもたちは自宅で勉強ができなかったり、収入の機会の妨げになるなど、キャンプでの生活に支障をきたしています。

今回のモニタリングでは、85世帯に家庭訪問を行い、子どもの勉強時間の向上やキャンプでの生活、収入の機会の増加等についての聞き取りを行いました。今回の聞き取りによって、ソーラーランタン配布前と比較して、自宅での勉強ができている子どもの数が増加していることや、1日あたりの勉強時間が増えていることが確認されました。

ソーラーランタンとは

太陽光を使って電力を発電し、電源のない場所でも明かりの確保ができます。



事業地の声

フィリピン

栄養改善に取り組むボランティアの声

アイキャンでは、2019年9月よりトンド地区において栄養改善のための給食活動を実施してきました。また、2022年4月からは、味の素ファンデーション様のご助成をいただき、同地区において、「食の行動変容」事業を実施しています。

アイキャンと協働で給食活動を運営している、トンド地区の住民ボランティアが主体となって、地域の保護者と幼児の食行動の改善を促していくことを目指し、今期は、住民ボランティアの能力強化と組織化に取り組みました。今後、地域の母親や幼児に対する啓発活動を実施していく予定です。



ボランティア：ニダさん

私はアイキャンの栄養改善事業が始まる前は、外に出ることはほぼなく、日々家事や子どもの世話をしていました。友人から給食活動のボランティアが必要と聞いて、私はアイキャンの活動に参加することになりました。これまでに、アイキャンが主催したワークショップに2回参加して、自分の意見を他の人に共有したり、人前で発表したりする経験を初めてしました。そのおかげで、私は自分に対して自信を持てるようになり、村の役員に対しても、給食活動の協力を求めることができるようになりましたし、給食活動に参加する子どもの保護者に、子どもの様子を伝えることなどもできるようになりました。別の自分になった気分です。



ボランティア：クリスティーナさん

私は中学校を卒業しておらず、仕事を得ることが難しく、いつも家で時間を過ごしていました。そんな折に、友人からアイキャンの栄養改善事業への参加に誘われました。その友人以外、知り合いのボランティアはいなかったのですが、今となってはみんな私の仲良しの友人です。事業の給食活動以外にも、各々の問題を共有して、誰かの相談にのることもあります。私たちの地域には経済的に厳しい状況の人々が多く、それは私たちボランティアも同様です。そのため、ボランティアのみなで協力して、ニンニクの皮を剥ぐ仕事を始めました。私たちボランティアは、子どもたちの栄養改善だけでなく、それぞれの問題の解決のために協働して活動しています。

パートナーの声

マンスリーパートナー様より



田中 政行 様

新型コロナウィルスやウクライナ侵攻等により、私たち日本も含め世界中が苦しむ昨今。中でもシワ寄せが行き易いのが、弱い立場の子どもたちです。フィリピンは、かつての大戦で大きな犠牲を強いられたにもかかわらず親日国です。現在は介護福祉分野をはじめ、私たちの社会を支えていただいている、在日外国人数でも上位の、身近で大切な隣人です。そんなフィリピンの子どもたちに、少しでも夢や希望を持ってもらうこの活動を、ささやかですが継続的に応援させていただきたいと思っています。

ご支援のお願い

(できること)
あなたのアイキャンを
お寄せいただけませんか？

おなかいっぱいご飯が食べたい、学校に通いたい、安心して眠る場所が欲しいー。
そんな基本的な生活を願う子どもたちや、その家族とともに続けてきたアイキャンの活動は、応援してくださる皆さま一人ひとりのご寄付によって支えられています。引き続き、「人々とともに」歩むアイキャンの活動へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

1. 「マンスリーパートナー」になる

マンスリーパートナーは、月々500円（1日17円）から一定額のご寄付を自動引き落としによってご寄付いただき、アイキャンの事業地の子どもたちの活動、および運営に活用させていただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。ぜひマンスリーパートナーになって子どもたちの活動を応援してください。

※詳細は別紙「マンスリーパートナーのご案内」をご覧ください



2. 書き損じハガキ・未使用切手等のご寄付

未投函の官製ハガキ、未使用切手、テレフォンカード、商品券、収入印紙をそのまま封筒に入れて、アイキャンまでご郵送ください。事務所に直接お持ちいただくことも可能です。

例えば…

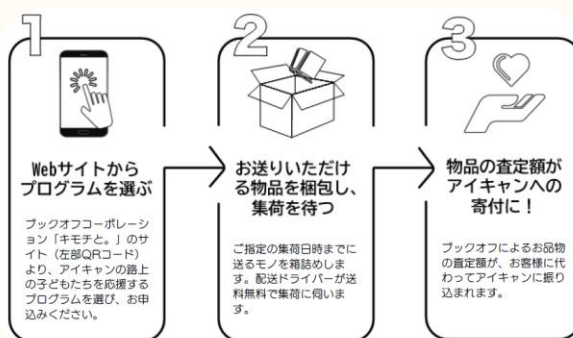
- ・ハガキ1枚は、子どもたちが勉強するためのノート2冊分になります
- ・ハガキ50枚は、栄養改善のためのご飯100杯分になります



↑詳しくはHPを
ご確認ください

3. リユースのご寄付（古本・DVD・ゲーム・おもちゃ等）

ブックオフコーポレーションと連携した物品による寄付サービスです。ブックオフの買い取り額が子どもたちとの活動に役立てられます。



↑「キモチと。」
のアイキャンの
ページはこちら

その他、都度寄付や「子どもの家ファミリープログラム」へのご加入、フェアトレード商品のご購入による応援のカタチがございます。詳しくはアイキャンHPをご覧ください。

ODAについて知ろう！

ODAとはOfficial Development Assistance（政府開発援助）の略で、国際協力活動のための公的資金のことです。世界には、紛争・貧困・食糧不足・学校へ行けない等の教育問題の他、近年では気候変動・大規模自然災害・感染症等の問題が山積みになっており、ODAはこうした様々な課題解決のために役立てられています。

例えばアイキャンでは、ODAを活用して・・・

フィリピン・ミンダナオの紛争地ピキット町において、教師や子どもたち、村人たちに対し、暴力に頼らない問題解決法を習得するための平和研修を行うとともに、小学校や中学校の校舎を建設しました。建設された学校は「平和の学校」として、地域レベルで人々の憎しみを取り除き、暴力に頼らない問題解決の方法を広めています。



もっと知りたい方は、**NGO相談員**を活用ください！

「NGO相談員」とは外務省の委託により日本のNGO団体が、国際協力やNGOの運営等について、市民の皆さまの質問に答える制度です。同制度では国際協力への理解促進のため、国際協カイベント、学校等において講演や相談員ブース出展を行う「出張サービス」も実施しています。コロナ禍ではオンラインでの対応も可能ですので、お気軽にご相談ください。



事務局からのお知らせ

1. 名古屋事務所を移転しました

アイキャンは、2022年9月25日より事務所を下記の通り移転いたしました。

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄1-31-30 パルナス栄504

これを機に職員一同さらに努力し、みなさまのご期待にお応えする決意でございます。今後とも変わらぬ応援をお願いいたします。

／ お電話でご連絡の上、
お気軽にお越しください！ ／



2. 遺贈寄付のご相談も承っております



遺贈とは、「遺言」によってご自身が築かれた財産の一部またはすべてを、法定相続人以外の個人や団体に贈ることをいいます。遺贈先としてアイキャンを指定いただくことで、あなたの尊いご遺志は、貧困・紛争・災害による影響を受けた子どもの能力向上や地域の環境改善に向けた活動に役立てられます。お気軽にお問合せください。



↑詳しくはこちら

特定非営利活動法人アイキャン（ICAN）

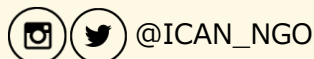
アイキャンは、一人ひとりの「できること」を持ち寄り、貧困・紛争・災害による影響を受けた子どもの能力向上や地域の環境改善に取り組む国際協力NGOです。

住所：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄1-31-30/パルナス栄504

TEL/FAX: 052-253-7299（火～土 12:00～19:00）

MAIL: info@ican.or.jp

WEB: <https://ican.or.jp/>



WEB QR